

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 11月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500208		
法人名	医療法人エム・エム会		
事業所名	ぐるーぷほーむ九嶺		
所在地	広島県呉市本通一丁目1-1メガネ橋プラザ4階 (電話) 0823-22-9090		
自己評価作成日	平成26年10月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500208-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年11月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

呉駅より徒歩圏内ということもあり、家族等の訪問者も多く、入居者が穏やかに生活している。協力医院がリハビリテーション病院であり、希望者は外来でリハビリ通院し、歩行訓練等を実施している。誕生日会や季節毎の行事を実施し、入居者が入居者のペースで日々楽しく過ごせるよう支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

マンション12階の4階部分を活用した1ユニット（定員9名）の事業所である。近隣の住民が利用されていることもあり、家族の面会、訪問者が多い。家族の協力をいただき、外出や外食など家族との触れあう機会づくりができています。法人の病院が併設していることで、希望があれば、週2～3回外来でリハビリ通院され、歩行訓練など行い、現状の身体機能の維持を図る取り組みを行っている。そのことにより利用者および家族にとっては安心に繋がっている。居室は全室洋室であり、リビングルームのスペースも十分確保され、ベランダの有効活用により、ゆったりと過ごせるような環境である。職員は、「9人の利用者が安全に健康で穏やかに生活していただく」ためには、まず職員も穏やかな対応に心掛けることを第一としている。管理者は理念の具体的な実現、継続するためには、まず職員の教育が大事と考え、今後も職員教育の充実を図り、利用者の更なる快適な環境づくりを目指したいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	掲示板に掲示し常に意識するよう心がけている。毎月の職員会議で理念に基づいた行動ができているかの確認を行なっている。	開所当初に職員間で意見を出し合い、理念を作り上げている。目に触れるところに掲示し、毎日の唱和、毎月の職員会議で全職員が共有し、実践に繋げている。利用者が快適な生活ができ、健康で穏やかに生活していただけるように、日々の支援や日々業務する中でも疑問などあれば理念に戻り、支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われる七夕祭り等の行事には積極的に参加している。	毎年の地域行事（ふれあい七夕まつり）への参加では、利用者と職員と一緒に短冊など飾り付けを行っている。街中でもあり、地域との関わりが難しい状況であるが、事業所として孤立しないように法人の病院では「茶話会」を開催するなど行い、地域の方の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等を通じて地域の人々へ事業所や入所者への理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で家族や行政、地域の人々からいただいた意見は積極的に取り入れるようにしている。	地域包括支援センター職員や家族、町内会長、居宅介護支援事業所ケアマネジャーなどが参加されている。内容としては、現状報告、実施した行事報告、今後の行事、職員異動、意見交換などを主として、事業所の活動報告をされている。その中で、地域ニーズや地域情報をいただき、利用者支援に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	頻回に情報交換等を行い、関係は良好である。	呉市の主催で、年1回事業所の集まりがあり、情報交換および意見交換を行っている。市の担当者とは必要に応じて、密に連絡を取り、協力関係を築くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>体動の激しい利用者に関しては家族の承諾を得て、時間帯によって抑制をさせてもらう場合はあるが、原則は身体拘束を行わないケアを行っている。</p>	<p>内部の年間研修計画の適宜実施や月1回の職員会議などで身体拘束について研修を行っている。職員は身体拘束について正しく理解されている。マニュアルの整備もされ、利用者支援について疑問があれば、話し合いを持つようになっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内・外の研修や職員ミーティング等で学ぶ機会を設けている。また、職員間で注意し合える環境づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内・外の研修や職員ミーティング等で学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族に解りやすい言葉で説明することを心がけ理解を得た後、書面で同意をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族よりの要望は、できる限り施設運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>利用者の方が、周辺からの利用のため、家族の面会、訪問も多い。家族面会時には、ホームでの近況報告や緊急を要する場合は適宜電話連絡をしている。利用者や家族からの要望は「連絡ノートまたは相談・苦情記録簿」に丁寧に記載され、それらの意見や要望などを利用者支援および運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々のミーティングや月に1度の職員会議の場を設けている。 職員が意見や提案を言い出しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	<p>日々管理者が気を配って、個々の職員との話し合いをしている。職員から要望・提案もあり、利用者支援に当たり、職員の勤務時間の変更をした経緯がある。職員間は話しやすい雰囲気であり、日々の支援で疑問などあれば職員間で話し合いの場を設けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の公休希望等はなるべく通すよう配慮している。 職員が意見や提案を言い出しやすい雰囲気作りに努めるよう努力している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修内・外の研修の参加には積極的な参加を促している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>研修の参加により同業者との交流の機会を設けている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の段階で本人や家族の要望等を把握し介護計画に取り入れるようにしている。また相談窓口を設け相談しやすい環境づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>本人や家族の要望や不安点等を聞き入れ、双方が納得できるよう話し合いの場を設ける等の工夫をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用を開始する前の段階より十分に話し合いの場を持つよう心がけている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人が安心して生活できるよう、職員の言葉がけや態度には注意をしている。また利用者から学ばしていただくという気持ちで対応するよう心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族には近況報告等を含め積極的にコミュニケーションを行っている。また、誕生日会等の行事には家族の積極的な参加を促している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の関係者の訪問に関しては歓迎している。また、再度訪問してもらえるような空間作りに配慮している。</p>	<p>「家族の一員」として対応するようという考え方のもと適切な支援を心掛けている。家族や知人・友人などの訪問も多く、事業所としても再度訪問してもらえるように、訪問時はお茶出しなどされ快く対応している。家族と相談、協力をいただきながら、外出・外泊などに出掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>食事や行事の際には利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう対応を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>当施設退所後も可能な範囲で近況を確認するようにしている。</p>		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人が何でも言いやすい環境づくりに努めている。また、本人の言動や表情の変化を察し、希望や意向の把握に努めている。</p>	<p>生活歴や日々の関わりのなかで、「個別記録」を活用し、要望を把握できるように努めている。日々きめ細かい観察を行い、言葉や行動から読み取り、本人の思いを大切にしながら利用者個々の望むことを実行に移している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入所前に可能な範囲で生活歴に関する情報を収集し、日常会話の中で生活歴がくみ取れるようコミュニケーションに工夫したりしている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>個人の性格や生活のペースに配慮しながら可能な範囲で洗濯や配膳等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、スタッフ等関係者と積極的なコミュニケーションを行い、いただいた要望等は介護計画に反映させるよう努力している。</p>	<p>担当者会議では、病院のリハビリ職員の参加もあり、適切なアセスメント（状態把握）に努めている。家族の意見や本人の思いを聞き、健康で穏やかな生活が送れるように具体的な介護計画および実施をしている。尚、日々の支援に変更などあれば「連絡ノート」などで情報共有され支援されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録簿や職員間の連絡ノートで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族のニーズは可能な限り対応していけるよう職員ミーティング等で検討し改善していけるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本人の趣味等を活かせるような地域資源の開発に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医に関しては本人や家族に選択していただいている。かかりつけ医とは情報提供を行い合い、利用者へ反映できるよう努めている。</p>	<p>病歴などのこともあり、入居時にかかりつけ医を相談しながら決めている。かかりつけ医への受診は、基本は家族対応をお願いしている。事業所として、内科医の月2回往診体制があり、利用者の健康チェックを行っている。「個別記録簿」に治療経過の記録も丁寧に記録管理され情報共有を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>職場内の看護師や訪問看護師と積極的な情報交換を図り、利用者へ反映できるよう努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者や家族等と連絡を取り合い、利用者の現状把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居前の時点で本人、家族の要望等を聞き、当施設でどこまでの支援が可能であるか等の話し合いの場を設けている。入居中の場合はその都度本人、家族の意向を聞きながら話し合いを行うようにしている。</p>	<p>事業所として、終末期の対応はしない方針である。重度化やターミナルの時期となれば、医療機関との連携が不可欠なため、主治医との話し合いをその都度行っている対応となる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内・外の研修等で定期的な訓練を実施している。また、急変や事故発生時のマニュアルを作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>施設内・外の研修等で定期的な訓練を実施している。また、急変や事故発生時のマニュアルを作成している。災害時のマニュアルを作成している。</p>	<p>災害時のマニュアルは整備されている。特に夜間は限られた職員人数のため、同法人病院の当直者の応援等の体制が法人内で整備されている。火元を出さない取り組みとして、毎日掃除を細目に行っている。備蓄品（飲料水、食料、トイレ、毛布など）は、法人病院で準備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重やプライバシーの部分に関しては最大限の配慮をし声かけや対応を行っている。	人生の先輩として、敬意を払い節度ある対応に心掛けている。職員が穏やかに対応することを第一と考え、日々の会話でも大きな声とらないようにしている。新任研修および年間研修計画により研修も適宜されている。利用者一人ひとりを尊重し、受容、共感、傾聴の姿勢を大切に対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	開かれた質問となるよう配慮し声掛け等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望により入浴時間をずらしたり等可能な範囲で本人のペースに添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る衣服等はなるべく本人に選択していただくよう支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備や片付け等が可能な利用者には行ってもらっている。季節に応じた食事の提供等にも配慮している。	母体の病院よりおかずが提供され、事業所ではご飯・汁物を作っている。併設病院には管理栄養士が配置され、適宜相談できる体制であり、本人の喫食状況に見合った食事提供をしている。誕生日には、希望の料理と手作りケーキでお祝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量や水分量等は細めに記録を行い，摂取量等が少ない場合には管理栄養士などに意見を求めるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，口腔ケアを促し，困難な利用者には職員が支援を行い清潔が保たれるよう配慮している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表に記録し，本人の排泄パターンの把握に努めている。また，トイレでの排泄の自立が継続できるようリハビリ等も行っている。</p>	<p>排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い，利用者の状態に合わせた支援をしている。排泄後には，臭い・量・形状などを確認し健康チェックをしている。便秘予防として，水分量は1日1,000CCを目安に摂取され，希望者にはオリゴ糖を摂取してもらい腸内環境を整えるなど，なるべく薬に頼らない方法としている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄表にて排便の有無を確認している。希望者には毎日オリゴ糖を摂取してもらい腸内環境を整える等の工夫を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は原則週2回で設定しているが，利用者の気分や体調等により曜日変更や時間をずらしたり等の取り組みを行っている。</p>	<p>入浴日は原則週2回実施している。今までの生活習慣もあり，なるべく夜間に近づける取り組みとして，午後からの入浴開始としている。一人ひとりの状態を把握し，シャワーチェアや手すり，ミストシャワーなど適切な入浴補助具使用により，ゆっくりと入浴ができるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	生活習慣や本人の体調や気分の変化により休息を促す等している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	個別に服薬ケースを用意し、誤飲や飲み忘れがないよう支援している。薬局よりもらう説明書は保管し、職員全員が把握できるようにしている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	行事や日々のレクリエーションが利用者の特技や趣味を取り入れたものになるよう努力している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	散歩等の外出支援を行い、気分転換等に努めている。また、本人の外出希望が強く職員での対応が困難な場合には家族に連絡し外出支援の協力を仰ぐ場合もある。	家族の協力により外出・外食とされている。事業所としては、職員が付き添いで併設の病院受診対応にて外出（週2～3回）されている。事業所近くの公園に花見など出かけることもある。	家族の協力で外出されている方もおられるが、事業所として対応しているのは、リハビリ通院対応の状況である。外出は、本人の気分転換にも繋がるため、気候が良ければ周辺の散歩や季節ごとの外出があればと思われまます。外出を通じて地域との交流がより図れるような機会づくりに努められることを望みます。
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	小額のお金は預かっているが、出納長等で個人の金銭を管理しており、本人の希望時等必要時は使用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	希望時には支援を行っている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に応じた飾りや季節の花等を取り入れ、利用者が四季を感じれるよう配慮している。また、施設内の清掃は原則毎日実施し、清潔に配慮している。	毎日の掃除によりホーム内は清潔に保たれている。換気や室温調整を行い、利用者の健康管理に努めている。利用者と職員と一緒に季節毎の作品、花、小物などを飾り付けを行い、リビングでゆっくりと過ごせるように環境調整している。ベランダを有効活用しプランターに季節の花を植えることもある。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食事の席の配置等は配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室は本人の好みに合わせ、ある程度自由に設定して頂いている。	全室洋室である。事業所としてベッド・収納家具を準備されている。本人・家族と相談しながら安心して過ごせるように自由に物品などの持ち込みをされている。尚、年末には家族の協力をいただき居室の大掃除をしている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	施設内はバリアフリーの作りになっており、車イスの利用者でも自由に移動できるよう配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ぐるーぶほーむ九嶺

作成日 平成26年12月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の外出希望が強く職員での対応が困難な場合には家族に連絡し外出の協力を仰いでいる	外出の頻度を増加し、利用者が四季を肌で感じていけるよう支援していきます	週に1回以上は散歩等による外出の機会を設ける	6ヶ月
2	4	運営推進会議においては利用者家族、地域住民、行政等の参加を促しているが、事業所スタッフや本人の参加も促していく必要がある	運営推進会議には本人の参加を含め多くの地域の方々が関われるよう、参加しやすい環境を設定していきます	運営推進会議には1人でも多くの方に参加していただけるよう内容を充実させ、雰囲気作りに努めていく	次回より
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。